

2025年3月期
第2四半期（中間期）
決算説明会用資料

2024年11月26日

The logo for RHEON, featuring the word "RHEON" in a stylized, handwritten-style font with a registered trademark symbol (®) to the right.

レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
証券コード（6272）

© 2024 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

- 1. 2024年度 上期連結決算概況**
- 2. 2024年度 通期連結業績予想**

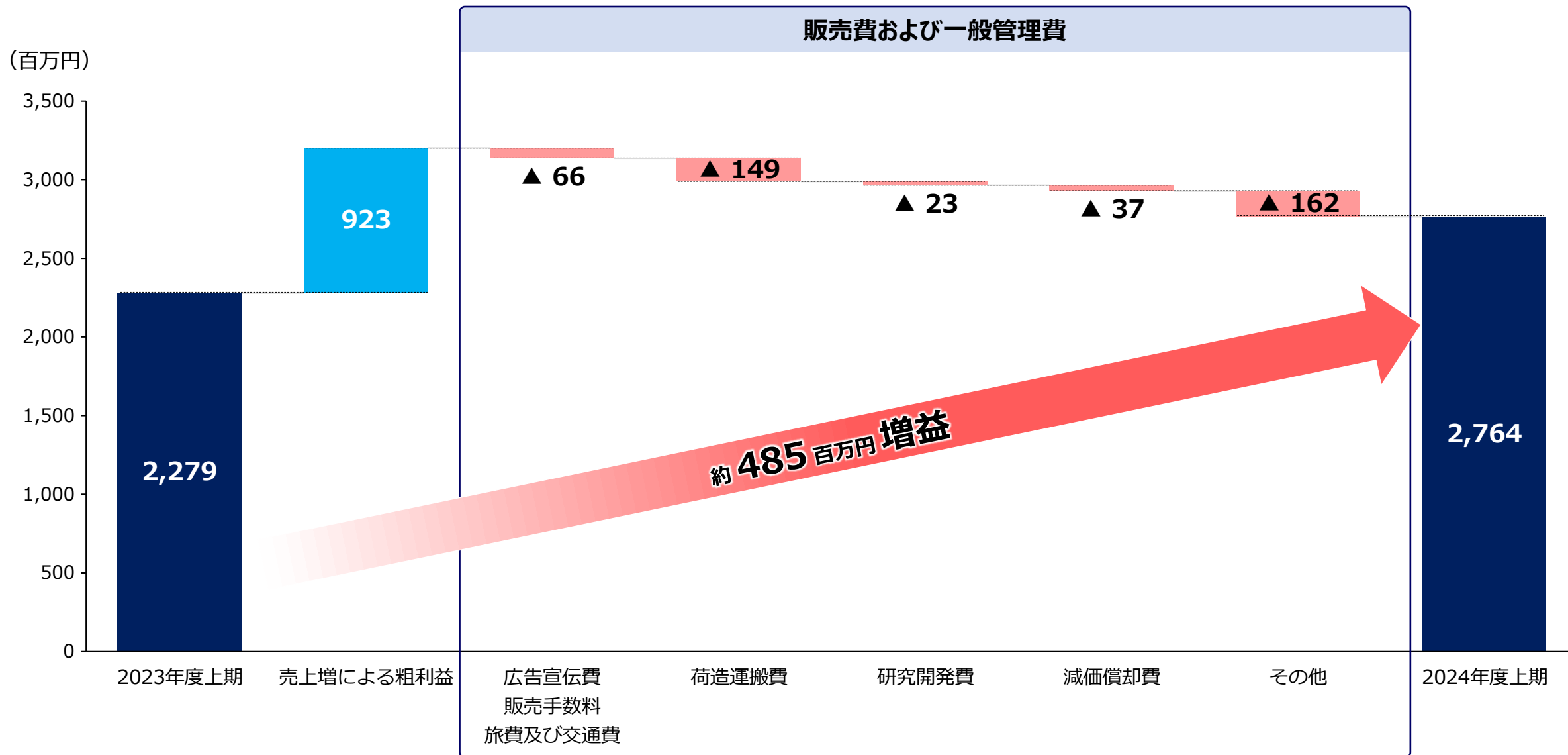
1. 2024年度 上期連結決算概況

2. 2024年度 通期連結業績予想

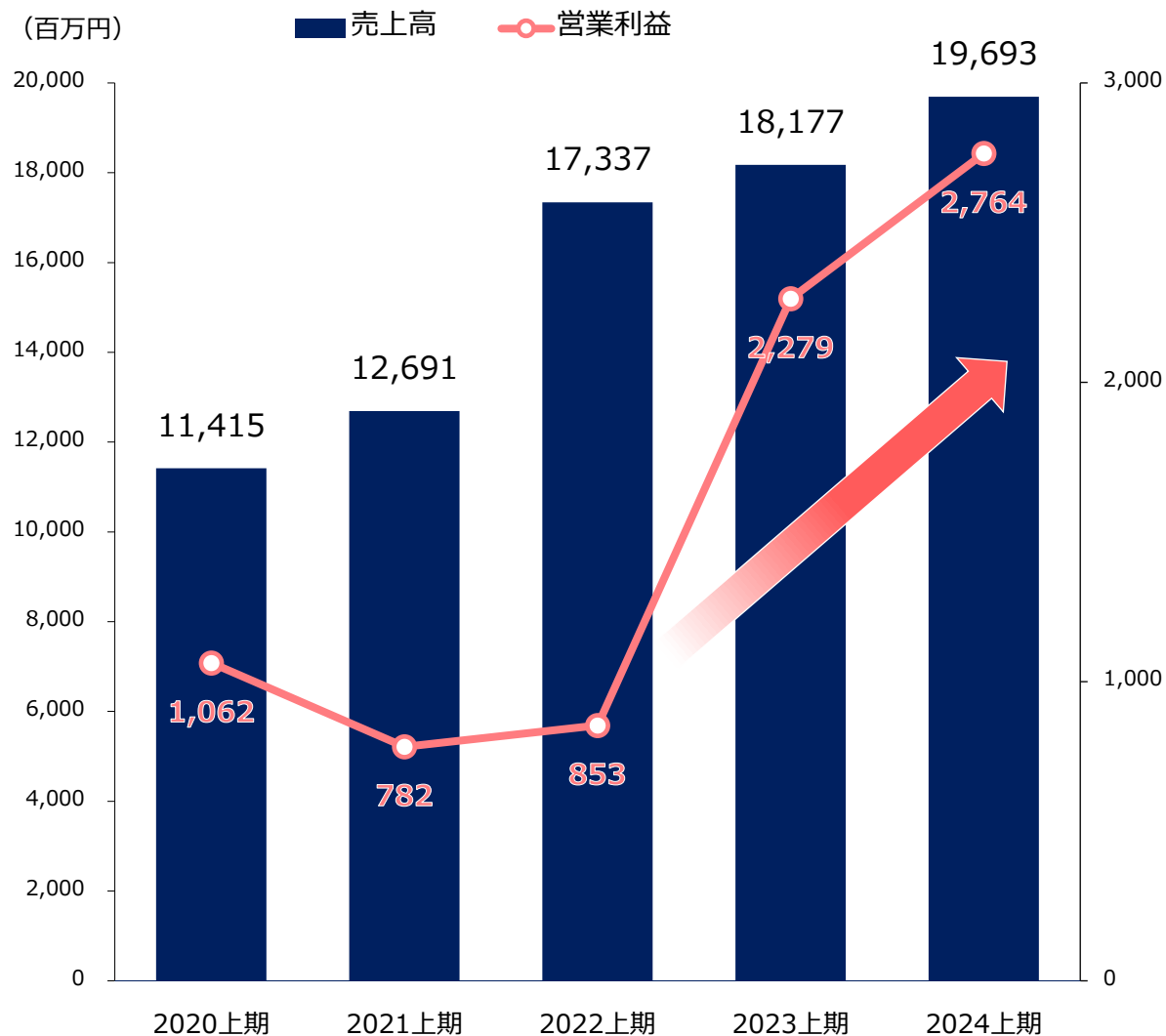
◆ 連結計算書サマリー（上期）

（百万円）	2023年度 上期実績	2024年度 上期計画 (2024年5月14日)	2024年度 上期実績	前年同期比 増減額	増減率 (%)
売上高	18,177	18,200	19,693	1,516	8.3 %
営業利益	2,279	2,400	2,764	485	21.3 %
経常利益	2,362	2,450	2,727	365	15.5 %
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,880	1,700	1,889	9	0.5 %
1株当たり中間純利益	70.09 円	63.35 円	70.38 円	0.29 円	—
中間配当	20.00 円	21.00 円	21.00 円	1.00 円	—
期中平均為替レート	USドル= 140.99 円 ユーロ= 153.38 円	USドル= 145.00 円 ユーロ= 155.00 円	USドル= 152.63 円 ユーロ= 165.95 円	—	—

◆ 営業利益増減（上期）

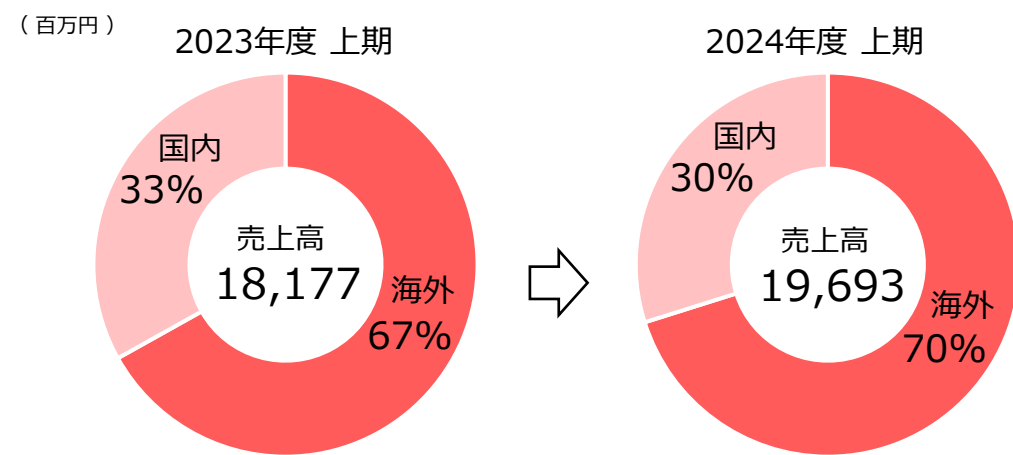


◆ 過去5年の業績推移（上期）

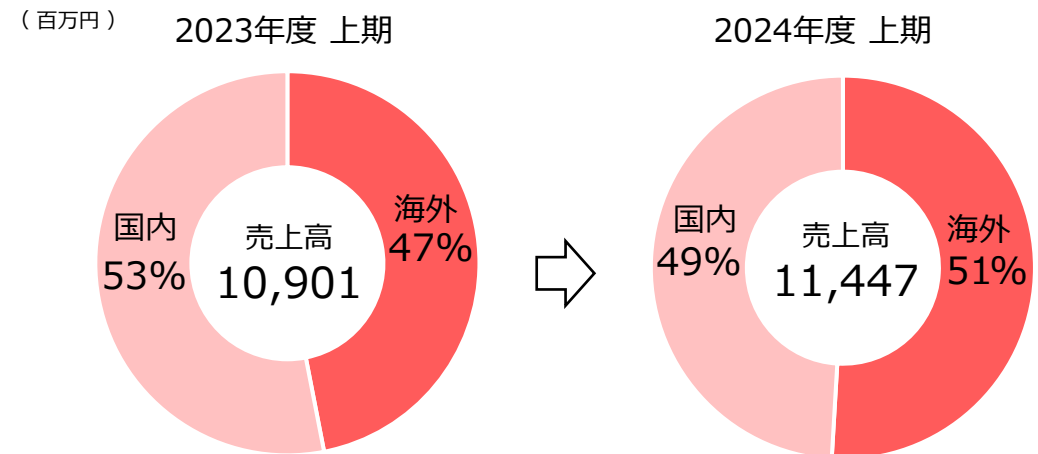


	2020上期	2021上期	2022上期	2023上期	2024上期
USドル	106.92 円	109.80 円	133.97 円	140.99 円	152.63 円
ユーロ	121.29 円	130.90 円	138.73 円	153.38 円	165.95 円

連結国内外売上高比率



食品加工機械製造販売事業 国内外売上高比率



◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》（上期）

食品加工機械製造販売事業

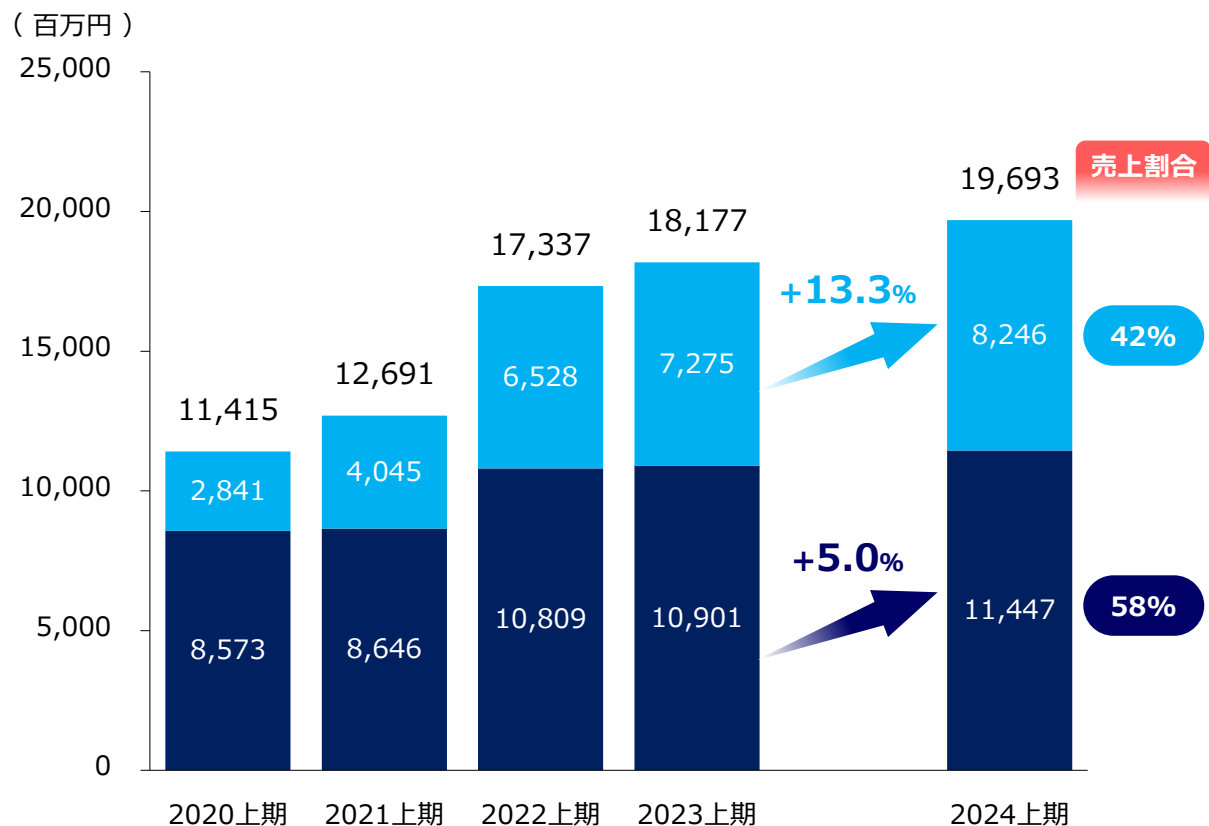
省人化・自動化に向けた設備投資需要の継続により、売上高、セグメント利益ともに増加。

食品製造販売事業

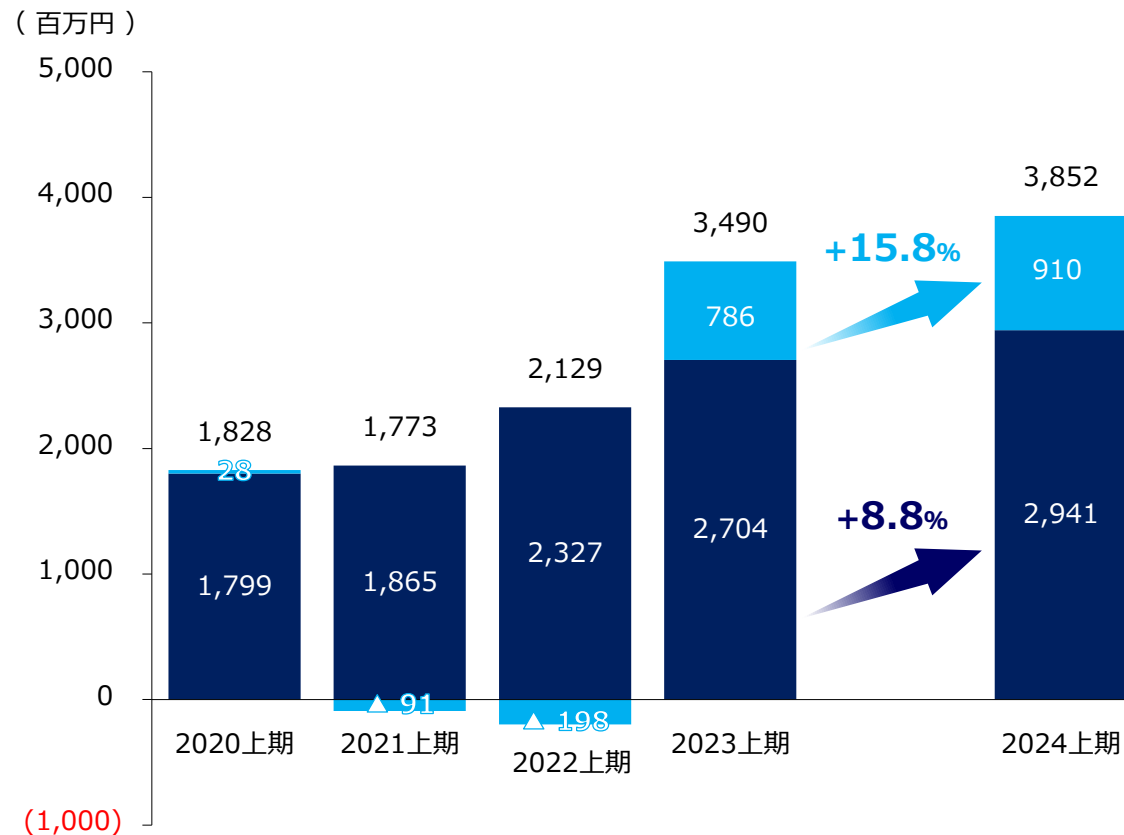
米国において、主力製品の売上増加や経費削減により、売上高、セグメント利益ともに増加。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業

売上高

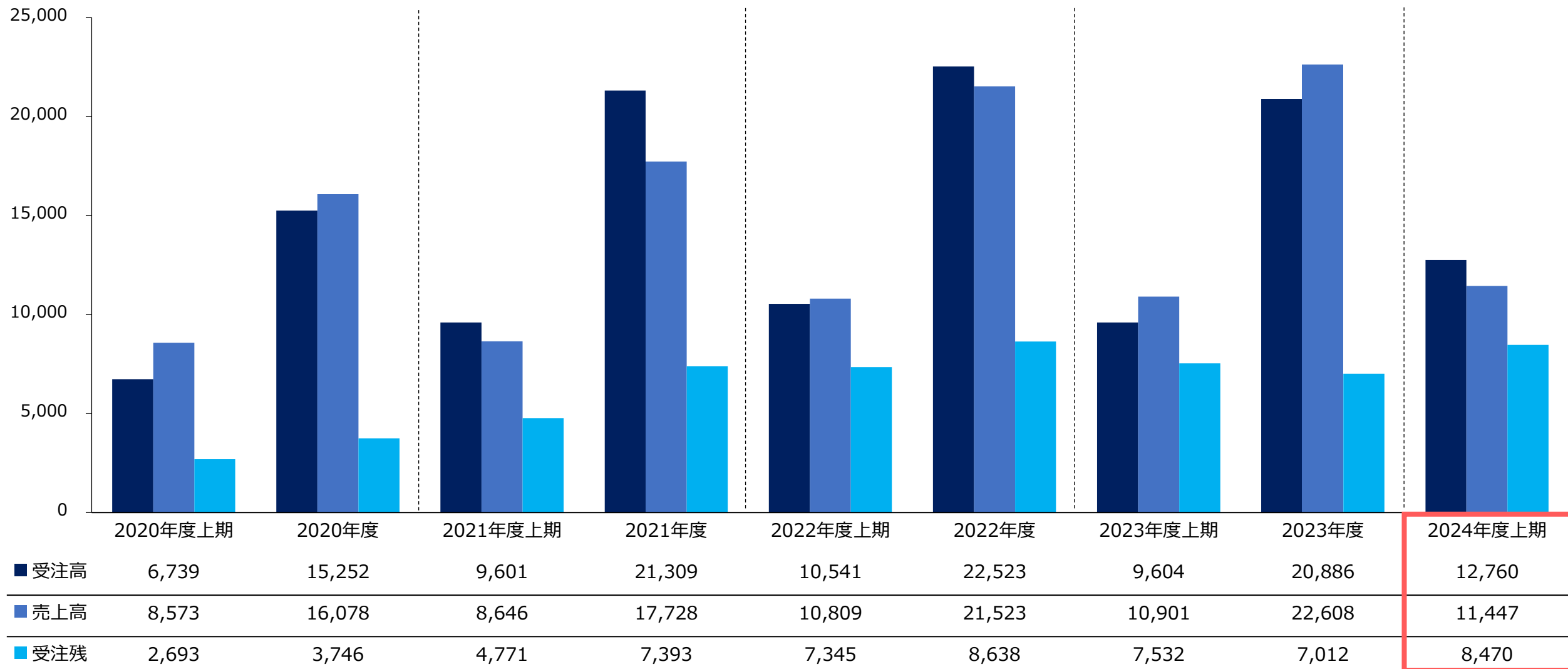


セグメント利益



◆ 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移

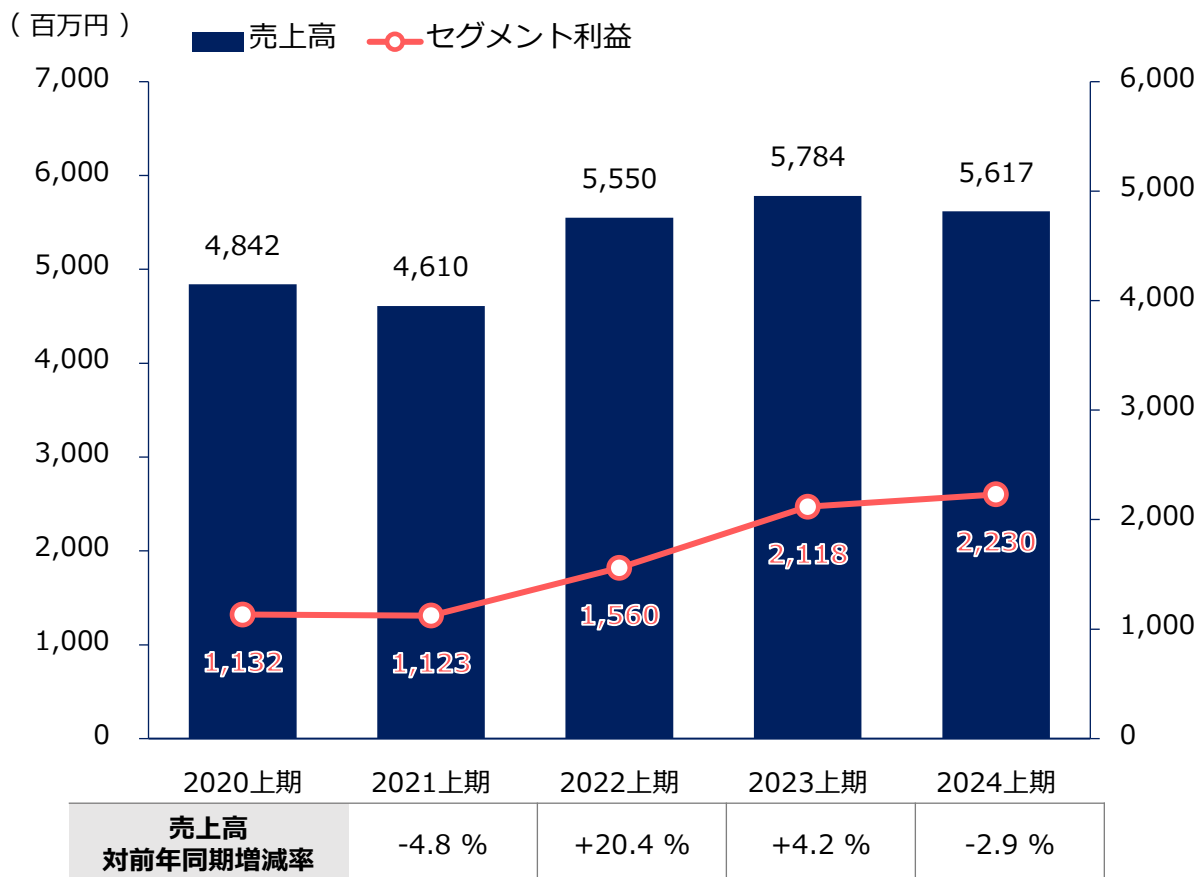
(百万円)



◆ 食品加工機械製造販売事業 日本 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

- 国内市場はコンビニ・スーパーなど流通関連ベーカリーからの受注が減少したことにより、売上は減少。

売上高・セグメント利益



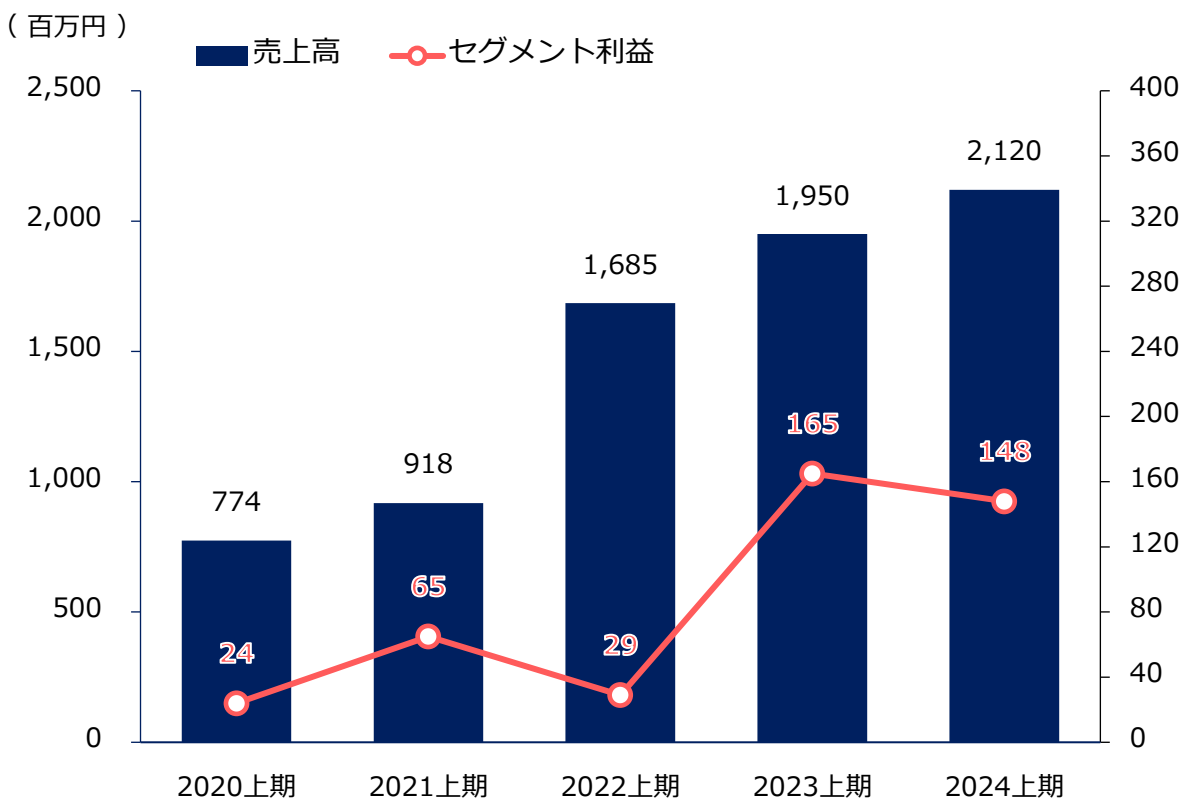
主な増減要因

- 自動化ラインは、コンビニ・スーパーなど流通関連ベーカリーからの受注が減少
- 単体機は、和洋菓子小売りや土産菓子向けの販売が回復したが、売上は減少
- 修理その他の部品販売は好調

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

- 人手不足による人件費高騰により食品生産の合理化需要が継続し、売上が増加。

売上高・セグメント利益



売上高 対前年同期増減率	2020上期	2021上期	2022上期	2023上期	2024上期
		+18.7 %	+83.5 %	+15.7 %	+8.7 %

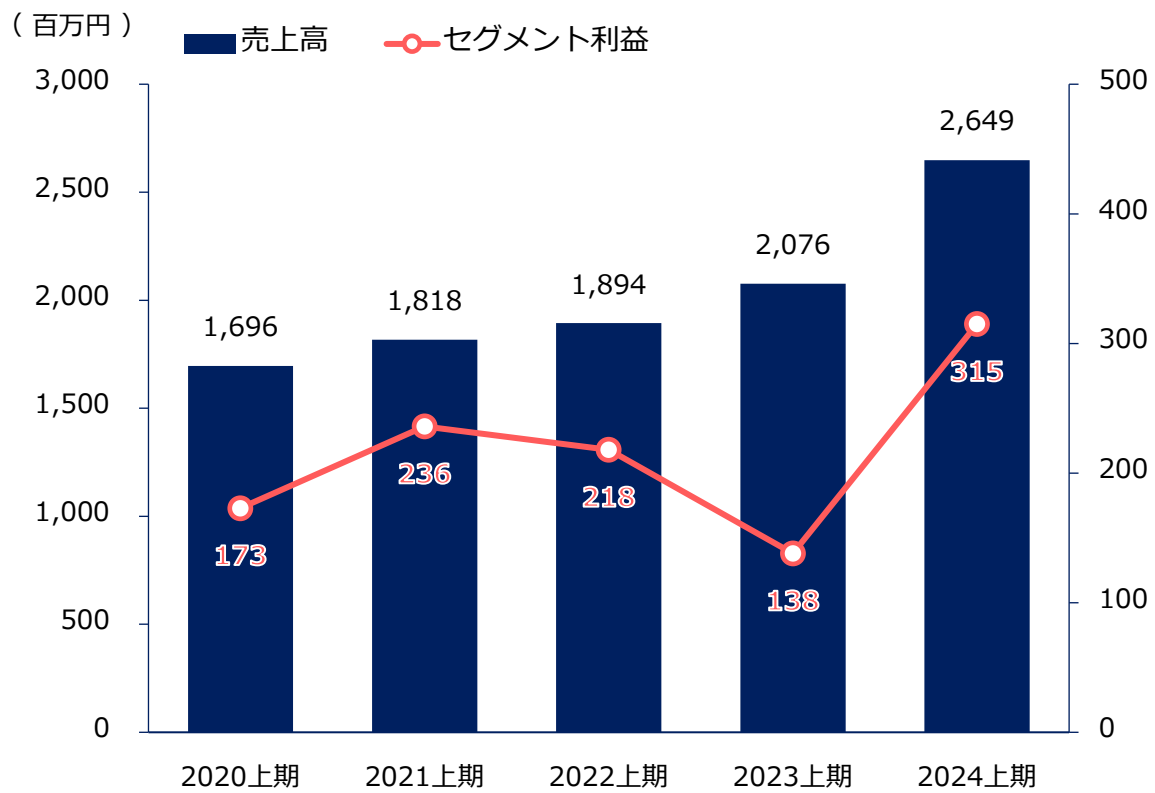
主な増減要因

- 自動化ラインは、大型製パンラインの販売を中心に機械売上が増加
- 食品成形機の売上は減少したが、部品および修理の売上は増加
- 展示会への出展による販管費の増加によりセグメント利益は減少

◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

- EU主要国での機械販売に回復傾向が見られ、製パンライン、包あん機の売上が増加。

売上高・セグメント利益



売上高 対前年同期増減率	2020上期	2021上期	2022上期	2023上期	2024上期
	+7.2 %	+4.2 %	+9.6 %	+27.6 %	

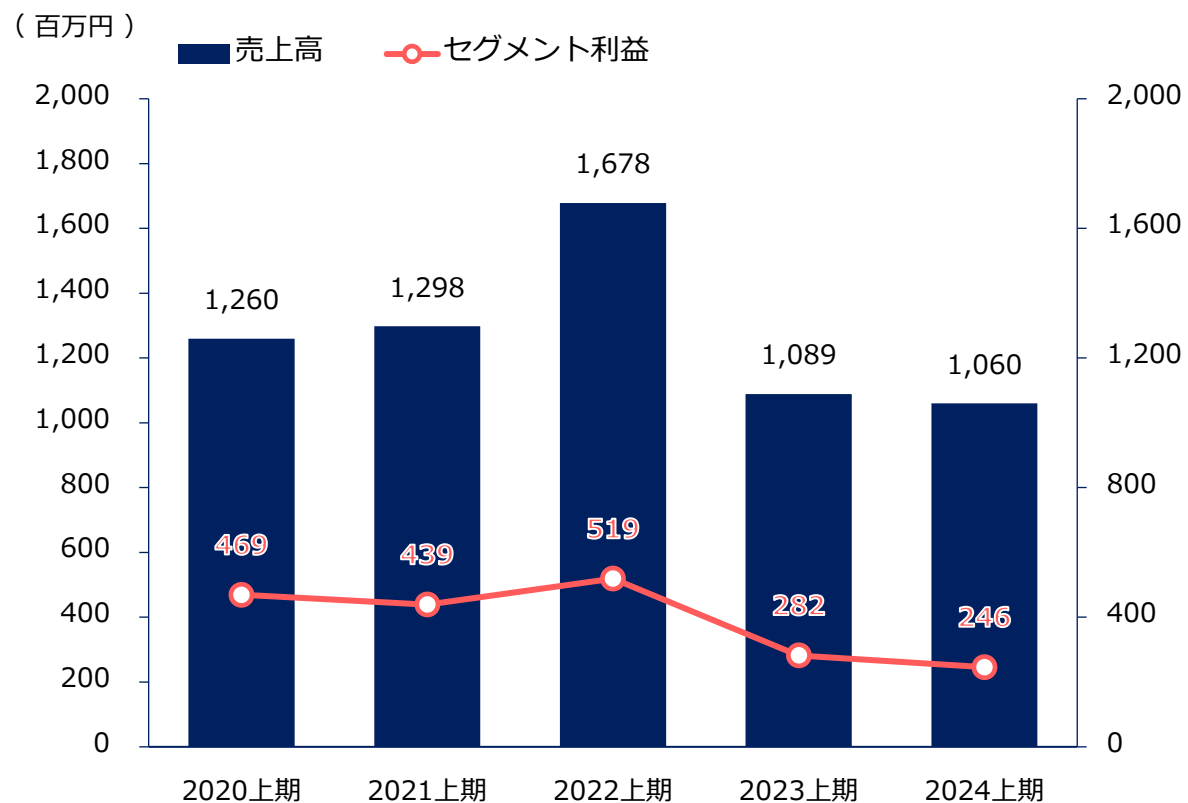
主な増減要因

- 自動化ラインは、主力製品である小型製パン機の販売が好調で、ペストリー生産ラインの販売などにより売上増加
- 単体機は、菓子・調理製品・健康食品など幅広い市場向けに販売したことや、観光市場の回復効果もあり売上が増加
- 大型展示会の開催がなく、販管費が減少しセグメント利益は大きく増加

◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去5年（上期） 売上高・セグメント利益 》

- 中国の景気回復が想定以上に遅れたことにより、機械販売が減少。

売上高・セグメント利益



売上高 対前年同期増減率	2020上期	2021上期	2022上期	2023上期	2024上期
		+3.1 %	+29.3 %	-35.1 %	-2.6 %

主な増減要因

- 自動化ラインは、韓国や台湾向けに製パンラインの販売が増加した一方、中国での販売が伸び悩み、売上が減少
- 単体機は、中国での販売は鈍化したものの、台湾や東南アジアの観光土産市場の回復により売上は昨年度と同水準をキープ
- 修理その他の部品販売は好調

◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》（上期）

売上高

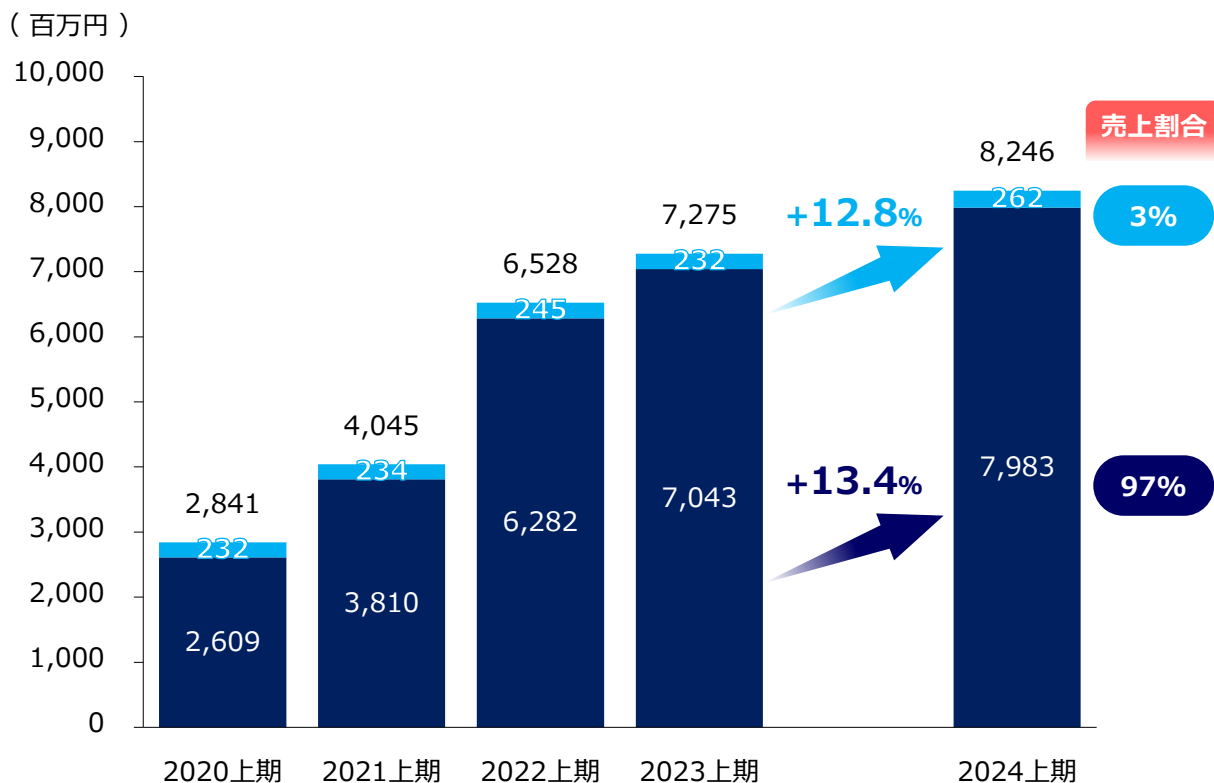
- 北米・南米 パイやクロワッサンなど主力製品の需要が継続し売上が増加。
- 日本 製品の販売プロモーション活動により売上が増加。

セグメント利益

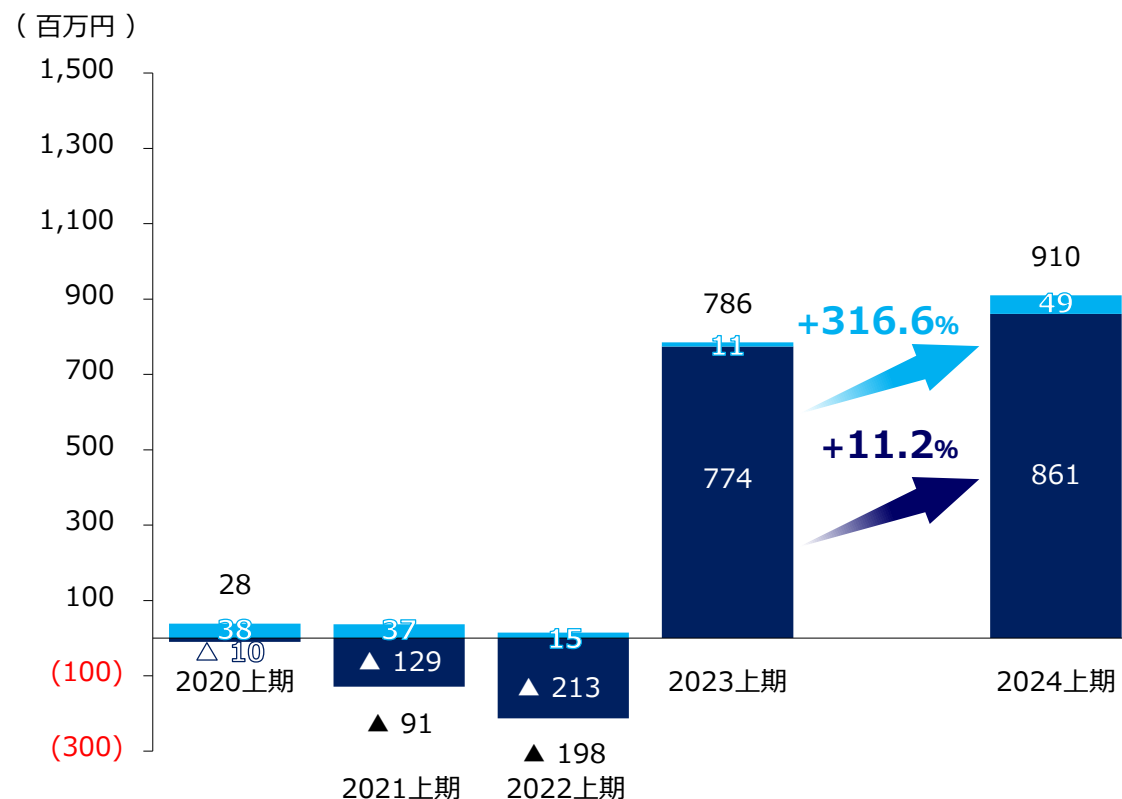
- 北米・南米 原材料費や運送費などのコストダウンや製造現場の省人化により利益が増加。
- 日本 生産工程の見直しなどにより利益が増加。

■ 北米・南米（オレンジベーカーリー） ■ 日本（ホシノ天然酵母パン種）

売上高



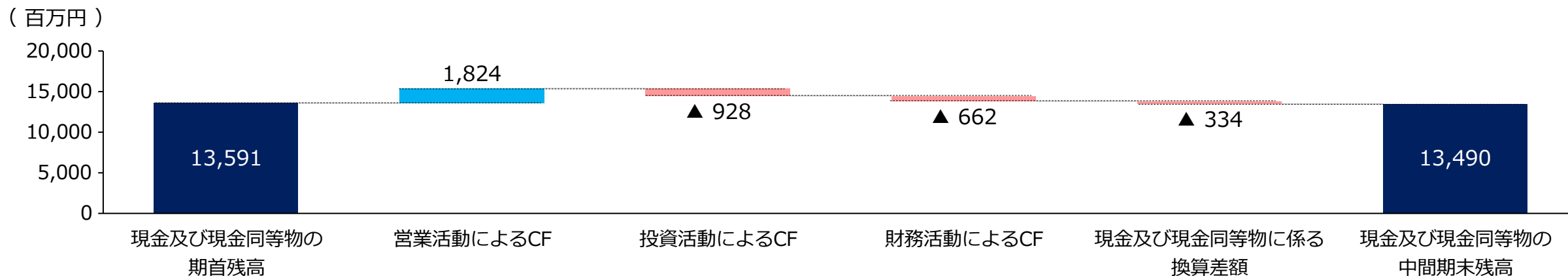
セグメント利益



◆ 連結貸借対照表サマリー（上期）

(百万円)	2023年度 (2024年3月31日)		2024年度上期 (2024年9月30日)				
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	44,574	100 %	44,919	100 %	345	0.8 %	—
流動資産	25,404	57.0 %	25,759	57.3 %	355	1.4 %	<ul style="list-style-type: none"> ● 受取手形及び売掛金の増加 ● 現金及び預金の減少 など
固定資産	19,170	43.0 %	19,159	42.7 %	▲11	▲0.1 %	<ul style="list-style-type: none"> ● 有形・無形固定資産の減少 ● 投資その他の資産の増加 など
負債合計	8,690	19.5 %	8,388	18.7 %	▲302	▲3.5 %	—
流動負債	6,744	15.1 %	6,630	14.8 %	▲114	▲1.7 %	<ul style="list-style-type: none"> ● 支払手形及び買掛金の減少 ● 短期借入金の増加 など
固定負債	1,946	4.4 %	1,757	3.9 %	▲189	▲9.7 %	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期借入金の減少 ● 繰延税金負債の減少 など
純資産合計	35,884	80.5 %	36,531	81.3 %	647	1.8 %	<ul style="list-style-type: none"> ● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の減少 など
負債純資産合計	44,574	100 %	44,919	100 %	345	0.8 %	—

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー（上期）



（百万円）	2023年度上期	2024年度上期	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	11,440	13,591	—
営業活動によるCF	1,125	1,824	<ul style="list-style-type: none"> ● 税金等調整前中間純利益 2,727 ● 減価償却費 727 ● 売上債権（▲は増加） ▲718 ● 法人税等の支払額 ▲658
投資活動によるCF	▲428	▲928	<ul style="list-style-type: none"> ● 有形固定資産の取得 ▲743 ● 無形固定資産の取得 ▲177
財務活動によるCF	▲552	▲662	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期借入金の返済 ▲162 ● 配当金の支払額 ▲589
現金及び現金同等物に係る換算差額	298	▲334	—
現金及び現金同等物の増減額	442	▲101	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,882	13,490	—

1. 2024年度 上期連結決算概況
- 2. 2024年度 通期連結業績予想**

◆ 2024年度 通期連結業績予想

- 中国の経済回復の遅れや長期化するウクライナ問題もある中、好調なアメリカ市場により増収・増益を見込む。

(百万円)	2023年度実績	2024年度予想 (2024年5月14日)	増減額	増減率 (%)
売上高	37,703	38,950	1,247	3.3 %
売上原価	20,911	21,180	269	1.3 %
販管費	11,908	12,390	482	4.0 %
営業利益	4,883	5,380	497	10.2 %
経常利益	4,987	5,450	463	9.3 %
親会社株主に帰属する当期純利益	3,675	3,750	75	2.0 %
期中平均為替レート	USドル= 144.62円 ユーロ= 156.80円	—	—	—
想定為替レート	—	USドル= 145.00円 ユーロ= 155.00円	—	—

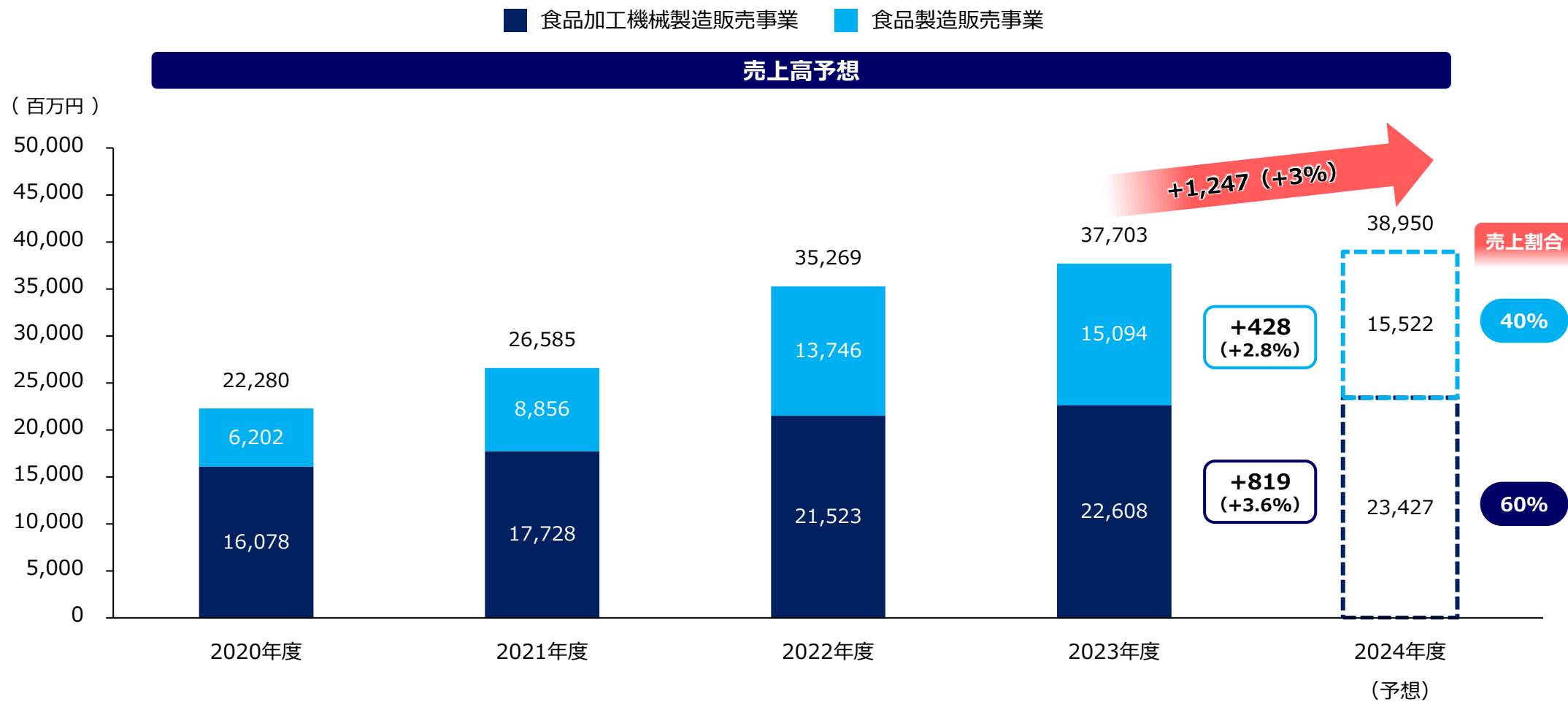
◆ 業績予想 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高》

食品加工機械製造販売事業

人件費高騰に対応した自動化の設備投資需要継続により、売上が増加すると予測。

食品製造販売事業

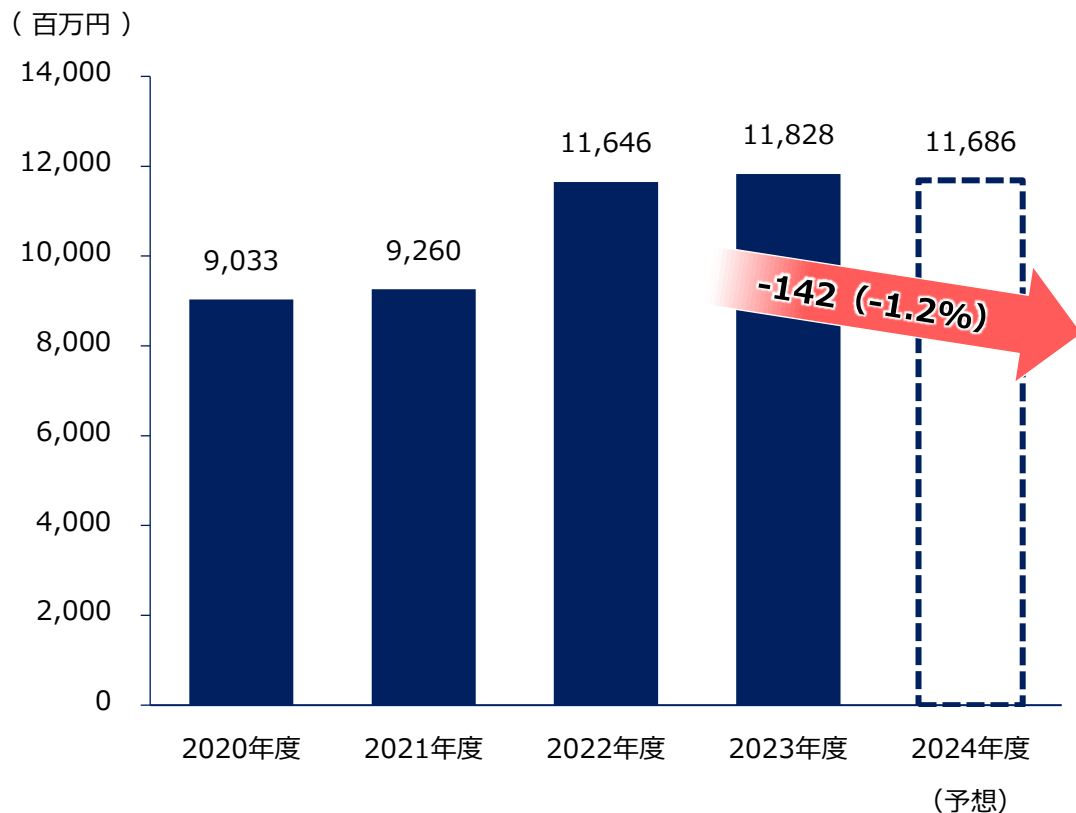
アメリカ市場での安定した需要により、売上増加と予測。



◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 日本 《過去5年（通期） 売上高》

- 製パン・製菓メーカーへの需要は回復、スーパー・コンビニ関連設備の売上が鈍化し、売上はわずかに減少と予測。

売上高予想



売上高 対前年同期増減率	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (予想)
	+2.5 %	+25.8 %	+1.6 %	-1.2 %	

主な増減要因

- 大手製パン・製菓メーカーからの設備買い替えや増設の需要が戻ってきているものの、スーパー・コンビニ向けターンキー案件の受注が減少
- 和洋菓子業界からの受注は増加傾向、また観光土産業界も回復基調
- 国内全体としては売上がわずかに減少すると予測

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年（通期） 売上高》

- 省人化に向けた投資が好調を維持、自動化ラインの販売により売上が増加と予測。

売上高予想



主な増減要因

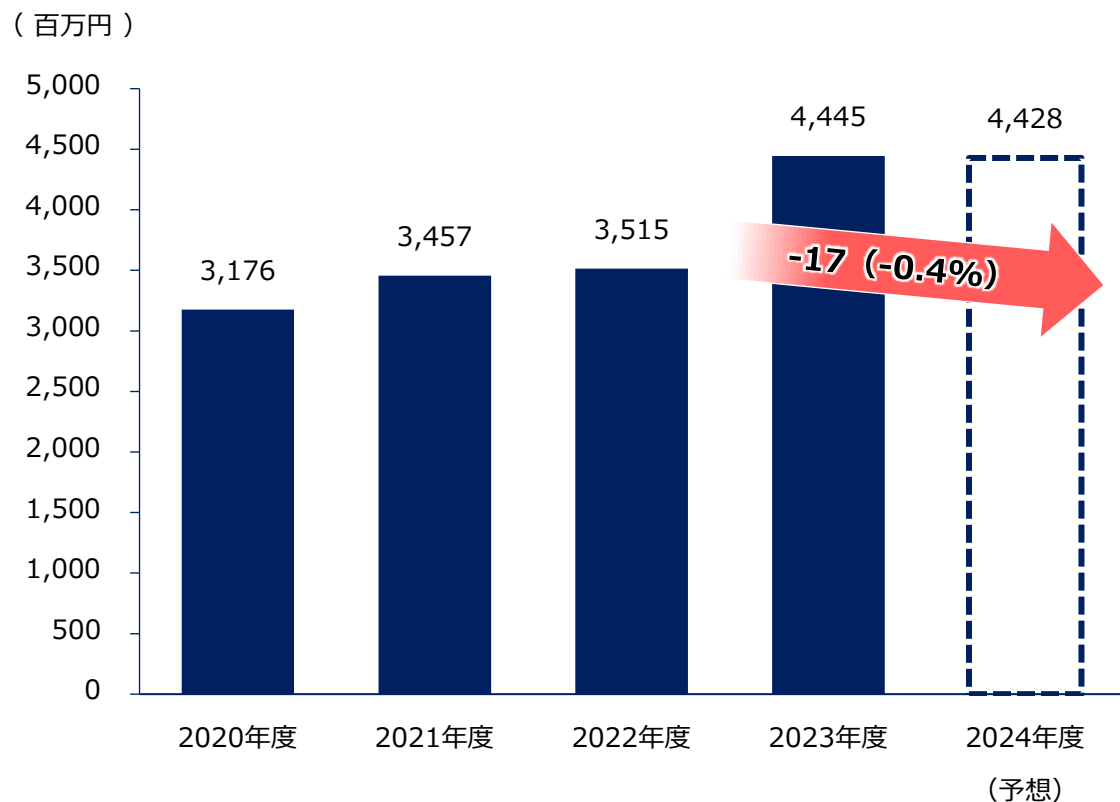
- 省人化に向けた設備投資が好調を維持
- 自動化ラインにおいては、アルチザンベーカリー向け製パンラインの需要が好調に継続
- 包あん機においては冷凍・チルド製品や南米エスニック商品向けの設備投資が鈍化

売上高 対前年同期増減率	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
		+56.8 %	+46.9 %	+13.7 %	+20.1 %

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（通期） 売上高》

- ヨーロッパ主要国への小型製パン機の販売は好調に推移。東欧諸国への製パンラインの需要も拡大。

売上高予想



主な増減要因

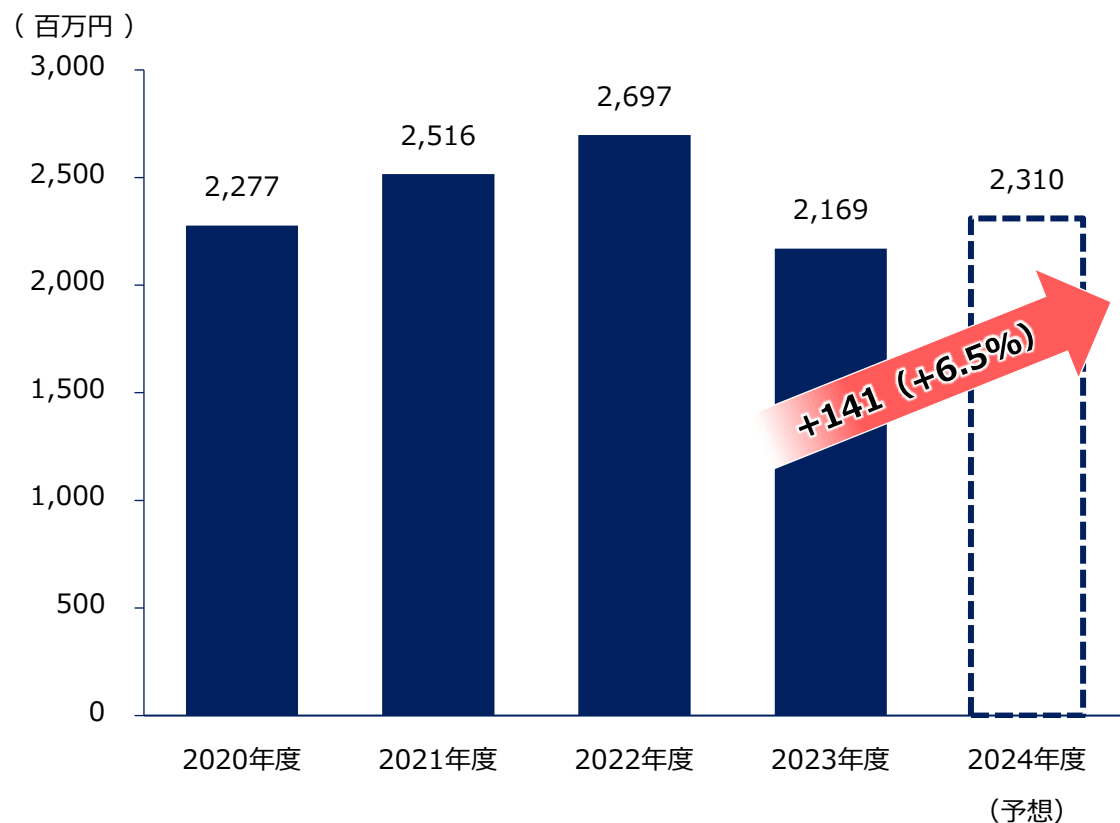
- 主力製品の小型製パン機の販売が好調に推移
- 東欧諸国における製パンラインの販売拡大
- 包あん機においては調理・冷凍食品の売上が好調であり、受注が継続
- アフリカ市場においては食品関連展示会への参加や、マーケティング活動を継続

売上高 対前年同期増減率	+8.8 %	+1.7 %	+26.5 %	-0.4 %

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 アジア 《過去5年（通期） 売上高》

- 中国市場での食パン・菓子パン売上回復の遅れにより、今後も厳しい状況が続くと予測。
- 台湾や韓国、東南アジアではインバウンド効果もあり、販売は順調に推移。

売上高予想



主な増減要因

- 中国での製パンラインの販売は今後も厳しい状況が続くと予測
- 包あん機は中国製の安価なコピー機との競合により売上は鈍化
- 台湾や韓国、東南アジア市場は好調を維持
- インドにおいては菓子パン市場への販売活動に取り組んでいるが、売上効果が出始めるのは来年度以降と予測

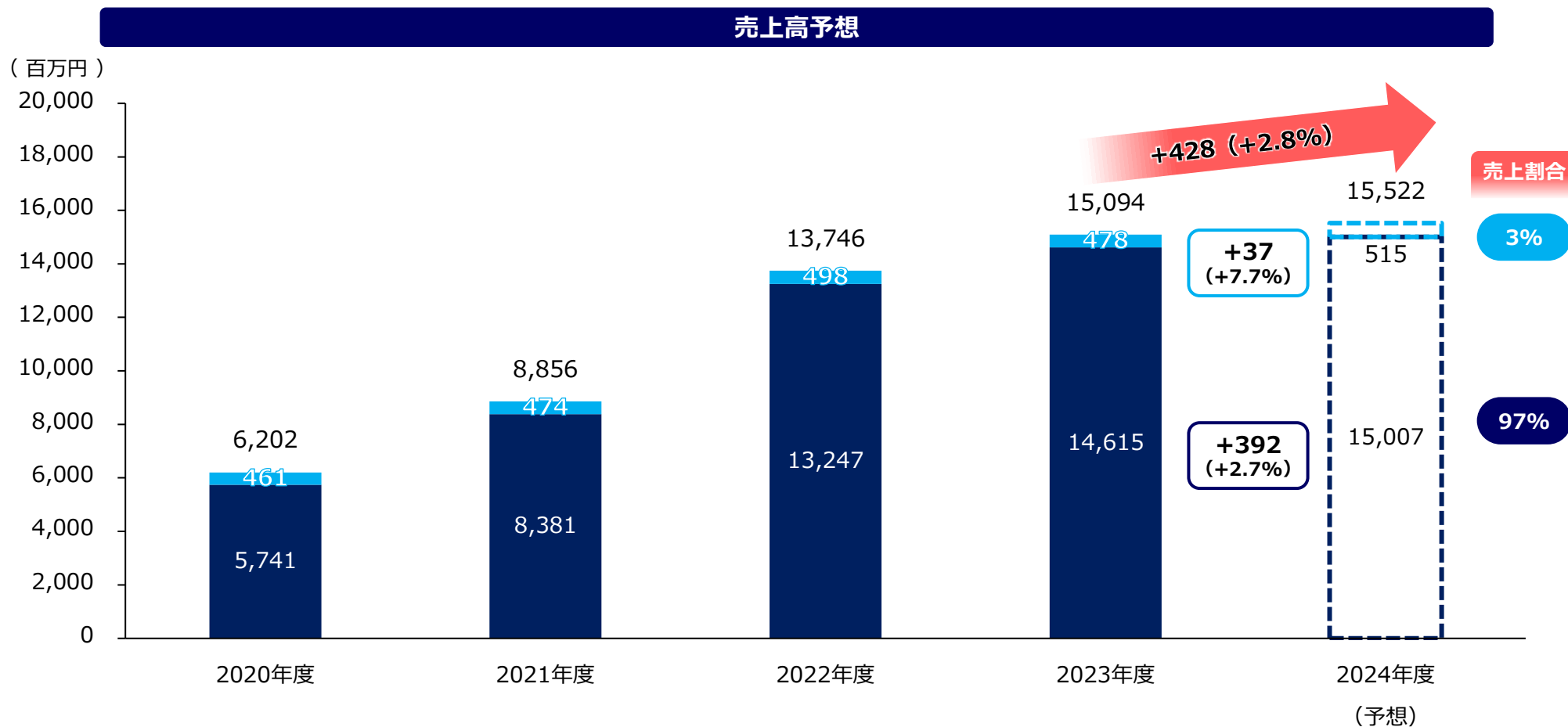
売上高 対前年同期増減率	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (予想)
	+10.5 %	+7.2 %	-19.6 %	+6.5 %	

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業 《 過去5年（通期） 地域別売上高 》

売上高

- 北米・南米 大型スーパーやレストラン向け商品の需要が順調に推移すると予測。
- 日本 小規模ベーカリーへの販売が順調に推移すると予測。

■ 北米・南米（オレンジベーカー） ■ 日本（ホシノ天然酵母パン種）

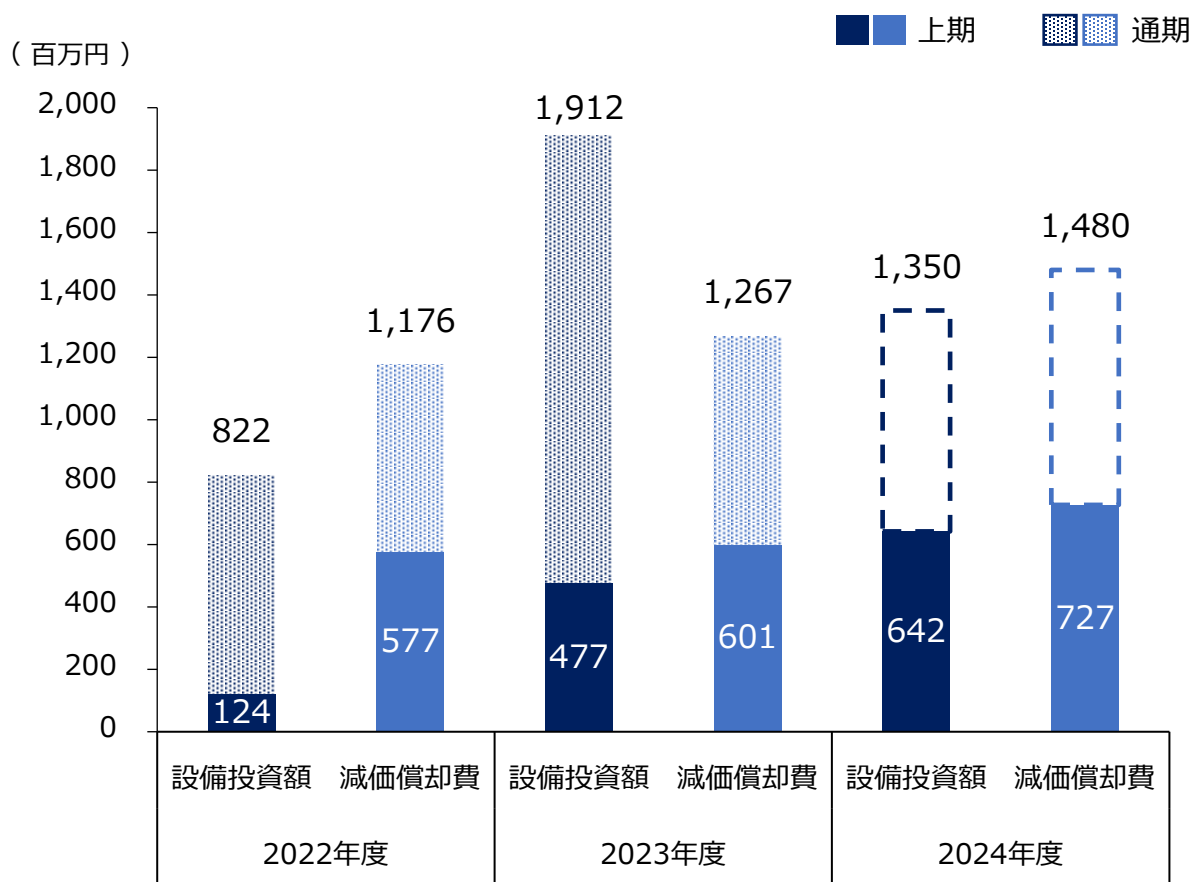


◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費

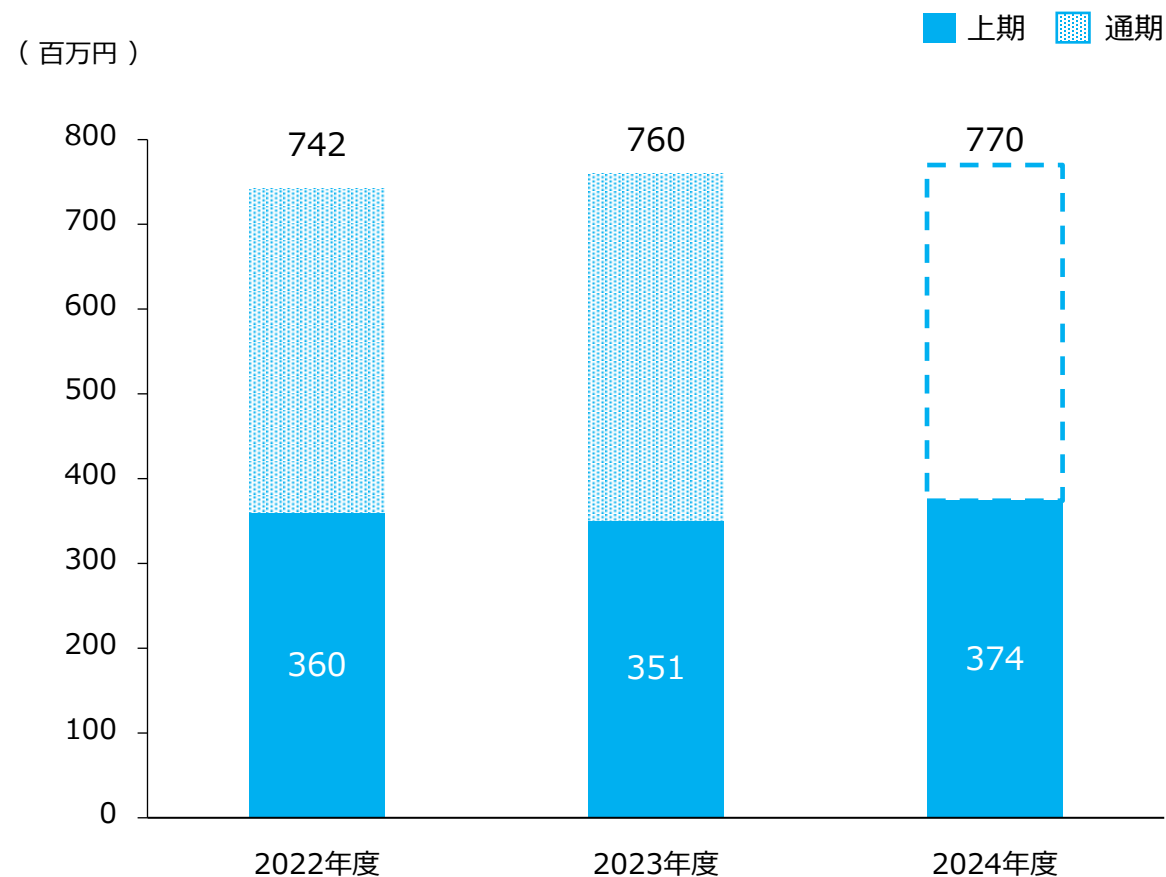
2024年度

上期設備投資：上河内工場の大型工作機械の更新やオレンジベーカーリーの生産機械の導入費等

設備投資額・減価償却費

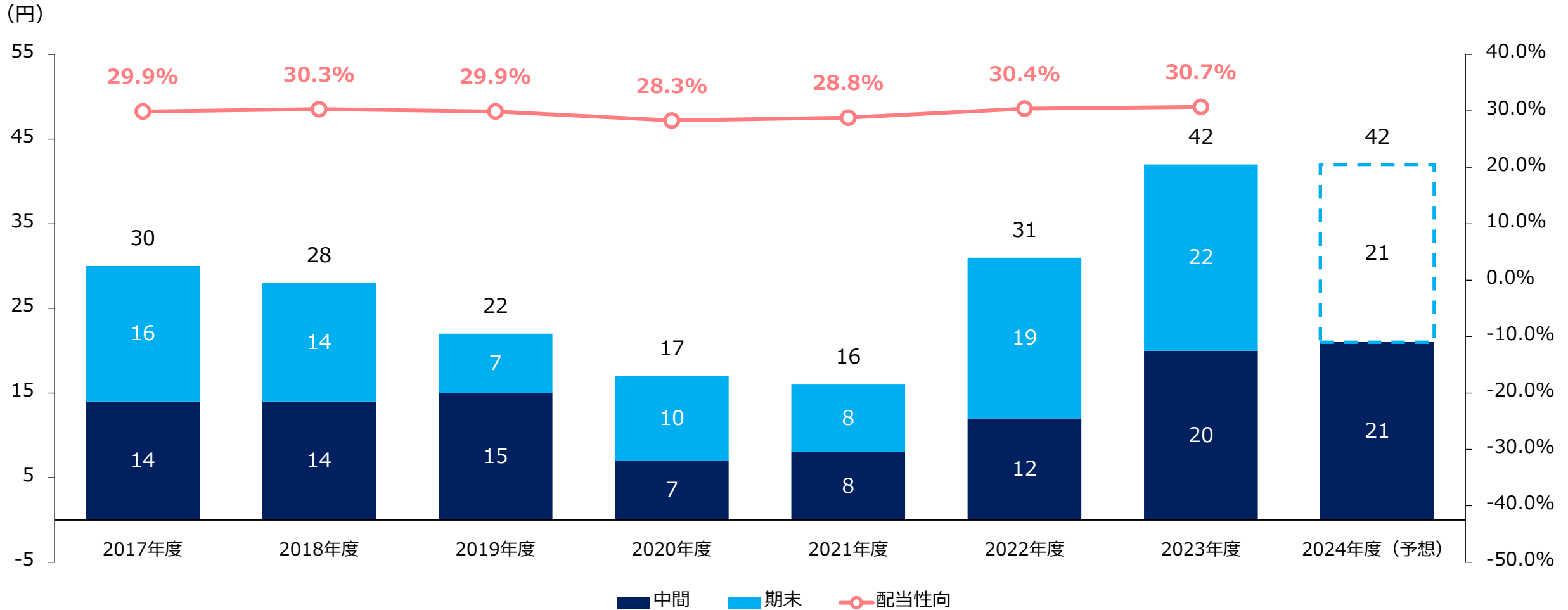


研究開発費



◆ 配当方針

- 2015年度に連結配当性向の目標を30%とし、業績等を総合的に勘案し継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針とする。



社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（故 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的リスクや不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。